ええカッコしの無限地獄

小中陽

小中陽太郎
えがこしの無限地獄

ええカッコしの無限地獄

一九七五年七月一日　初版

著者小中陽太郎
装幀者司修
発行者佐藤紀久夫
発行所株式会社時事通信社
東京都千代田区日比谷公園一―三
電話東京五九一局一一一一（大代表）
振替東京八五〇〇〇
印刷所太平印刷社
©1975 YOTARO KONAKA
落丁・乱丁本はお取替えいたします。

0036―　――　―3199

ええカッコしの無限地獄・目次

ええカッコしの無限地獄——7

私にとって性とは何か

○性は基本動詞である——13
○Amusant et Intéressant その混同と相互置換——28
○体験的セックス記事の狙い所——39
○性の暗喩としての性的商品——60
○思い出の狩人たち——77

カウンターカルチャーの意味するもの

○自然的若者と再帰的若者——91

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

○カウンターカルチャーの意味するもの――107
○若者たちの日常と非日常――120

こともあろうに僕の本が燃やされたのだ

1　こともあろうに僕の本が燃やされたのだ――137
2　新聞広告なんて糞くらえ！――142
3　猥褻製造人はお前だ――145
4　「出版の自由」という虚構――150
5　頑張れ、NHK――153
6　懲戒免職の先輩から――158

NHK王国の薔薇と棘

○NHK王国の薔薇と棘――167

○テレビジャックのすすめ――208
○少数者の光栄とマスとしての敗退――220

誰にとって戦いは終わったか

○誰にとって戦いは終わったか――237
○「ふつうの人」の異邦人感覚――253
○チャップリンにおける「盗みの思想」――269

あとがき――281
初出誌一覧――286

ええカッコしの無限地獄

ええカッコしの無限地獄

ええカッコとは、無間ならぬ無限地獄のようなものであって、一方から脱け出すと、他方に落ち込むあんばいである。それは、こういう仕組みになっている。ええカッコには、武家のええカッコしと浪人のええカッコしがあるといったところか。通常、世間では、武家のええカッコしを、狭い意味で、ええカッコしと呼んでいるが、じつは武家のええカッコしを逃れると、つぎにひとは、浪人のええカッコしにのめりこむのが常なのである。そして、武家のほうは、論理によって克服しうるが、浪人のええカッコしは、情念の問題であるので、これを逃れるのは百倍もむつかしい。

武家というと、いささかオーバーにすぎようが、もう少し事実に即していえば、体制派エリートのええカッコしのことであり、こういう例はいくらでもあろう。早い話、筆者が大学を出て、いわゆる公共放送の若手ディレクターとなり、白いワイシャツにエンジのネクタイをして、胸にバッヂをつけ、

神楽坂浮子に「さあ早く、早くカツラつけて」と気どってどなったとき、筆者は、第一の意味の、ええカッコしであった。こういう、ええカッコしは、まあ、底の浅いものだが、世間には、実に多い。コールレートとやらをきめる銀行、原宿にたっている、いわゆる公共放送、あるいは、むかし、スキヤ橋とかいう橋があったあたりの新聞社からはじまって、神保町のほうで、世界を睨(にら)んでいる総合雑誌、学生たちが牢獄につながれてしまうと、とくとくとして、テレビで、かれらの方法は悪いが、その純粋さはかってやらなければ、と合い槌をうち合う大学教授、ついには、短大で英語を生(なま)かじりして、コンパニオンだかホステスだかしらないが、映画館のアイスクリーム売りみたいなユニフォームをあてがわれて、外人の前に、白いパンティをちょろちょろと見せびらかす女の子まで、まさにこの世は、無邪気なええカッコしに満ち満ちている。

しかし、かような手合いは、これを縁なき衆生と観ずれば、それですむことである。

ところが、そのすませ方が度を越すと、つい、ひとは、浪人のええカッコしに陥ってしまうのである。

たとえば、巨大な日米の軍事的な帝国に対抗して、虫けらのような民衆が、ささやかなデモを繰り返す。これはカッコ悪い。カッコ悪いばかりか、ほとんど勝ち目はない。さて、このとき、たとえば、おれは、体制内変革を志す、といってワシントンに飛んで首相の記者会見のまわりに出没するカッコよさは、武家のええカッコしであって、この浅薄さについては、すでに私たちはこれを克服した。

問題は、このとき、雨に打たれるか、風に吹かれるかして、路傍にたたずんでいる善意の群れに対

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

して、かならず、つぎのようにいう人間があらわれることである。

——キャラメル・ママ、色あせたヒューマニズム、自己の怨念と無関係なところで博愛主義に身をやつすエリートども、民衆はそんなところにはいない、等々。

そして、自らは陋巷に徘徊し、濁り酒をくらい、天を向いて嘯く。公平を期すためにいっておけば、筆者もまた往々、この擬態を呈し、もって自らの立つ位置が判然としない。

さて、かようなものを浪人のええカッコし、というのである。

浪人のええカッコしは、日ごろ日常性の網の目にがんじがらめに捕えられているものにとっては、こよなき憧れである、という点においてええカッコしなのである。

そういうカッコウを続けるうらには数々の苦しみがある、などというのは気のいい世迷い言というべきで、もしそこに苦しみがあるとすれば、いま自らは醜態を晒していると自覚するときの、自己憐憫、自虐であり、そこに唯一の救いがあるとすれば、それが浪人のええカッコしへの唯一のブレーキなのである。

しかし、浪人のええカッコしは、そんなことで収まるほど生まぬるいものではない。それは、こわもてのええカッコし、隠遁のええカッコし、世捨て人、拗ね者から疑似敗者までさまざまに分化し、ひとはこの誘惑から逃れることはほとんど不可能なのである。ところで、かように自らを棚にあげて、ひとのことをいう資格が、筆者にあろうか。これがまったくない。まったくないが、ただ、筆者はつぎのようなパラドックスを身をもって感じている。まず、筆者は、公共放送にあって、ええカッコし

であったのに、退職するに及んで、公共的ええカッコはできなくなってしまった。ただし、このあと、すぐに浪人のええカッコしとなるかというとそうではない。つぎに失業者という名の著述業となるに及び、こん度は自由業とかフリーという、ええカッコをつけている。だが、これでもまだ中途半端である。武家のエリートの背景が公共放送からフリーのもの書きに変わったにすぎない。この間に、〝ベトナムに平和を！　市民連合〟などというものが発生する。これは、ええカッコのものではなかった。しかし長くやっていれば、なにがしかは、ええカッコしに陥るのは免れぬ。

こういうことから逃れるために、ここで筆者は、群れから身を離し、陋屋に酒を温めて、所詮、この道一筋につながる芭蕉などといいだす、すなわち、浪人のええカッコしのはじまりである。武家のええカッコしを逃れて、浪人のええカッコしにいたる、元の木阿弥とはこのことだ。

おそらく、武家のええカッコしに、はっと気づき、浪人に至って、これもわが任ならずとまた立ちもどる、その中途半端な往来こそ、凡人というべきであり、そこにしかええカッコから逃れる道もないのであろう。

私にとって性とは何か

性は基本動詞である

1

俄か語学教師が、教室で、フランス語の動詞変化を教えている。学生たちは、基本的な動詞ほど不規則変化をするのはどうしてだろう、と呆れ顔だ。今日(きょう)も今日とて、faire と aller の不規則性に音をあげている。

文法的にいえば、aller の活用が不規則なのは、ラテン語の三つの要素が混合しているからしい。フランス語の泰斗アルベール・ドーザは、そこでこの動詞を三頭政治ならぬ三頭動詞と呼び、こう書いている。

「aller-anar-andar の起源はロマン言語学のもっとも困難な問題の一つである」(クセジュ『フランス語の歩み』アルベール・ドーザ、川本茂雄訳)

私は、なぜそんな不規則性を採用し得るのかということを問題にしたいわけだ。俄か教師は汗を流して苦肉の策の説明だ。

「日常よく使う動詞は、例外的な変化のほうがかたちも目だち、いったんおぼえてしまえば、まちがいを起こしにくい。それに、よく使うのだから、不規則といっても、繰り返し口になじむわけだ。それで、基本的な動詞ほど不規則なんだな、きっと」

そしてつけくわえる。

「そうだ、日本語でもいちばん不規則な変化をするのは〝カ変〟と〝サ変〟、つまりクルとスルだろう」

そこで俄か教師は不謹慎な冗談をいう。

「ぼくの基本動詞はヤルとユクだけだね」

そこで俄か教師たる私は、はっと思いつく、

——スルとクル

——faire と aller

英語では to make, to do, to let に相当するのが faire で、aller は to go といっていいだろう。(ハラップのショーター・フレンチ・イングリッシュ・ディクショナリーのもっとも大きな分類項目だけひろっても、こうなる faire が I to make, II to do, III to form, IV 前置詞の例、V 非人称、VI (Syntactical constructions), VII (使役)。もって基本的な動詞であることがわかる。aller も同様だ。

そして、私が、はっと思ったのは、この基本的単語が、性においても、もっとも重要な言葉である

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com